

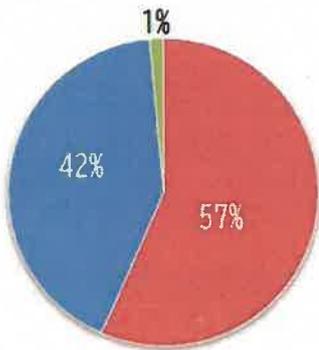
○ 参考資料

1. 市民意見

(1) 令和2年度市民満足度調査結果

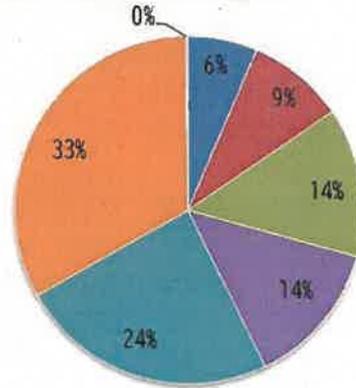
問1：性別

■ 女 ■ 男 ■ 回答しない



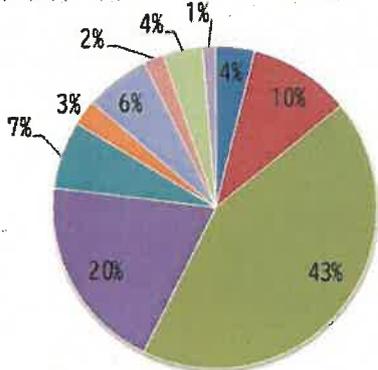
問2：年齢別

■ 29歳以下 ■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代
■ 60歳代 ■ 70歳以上 ■ 無回答

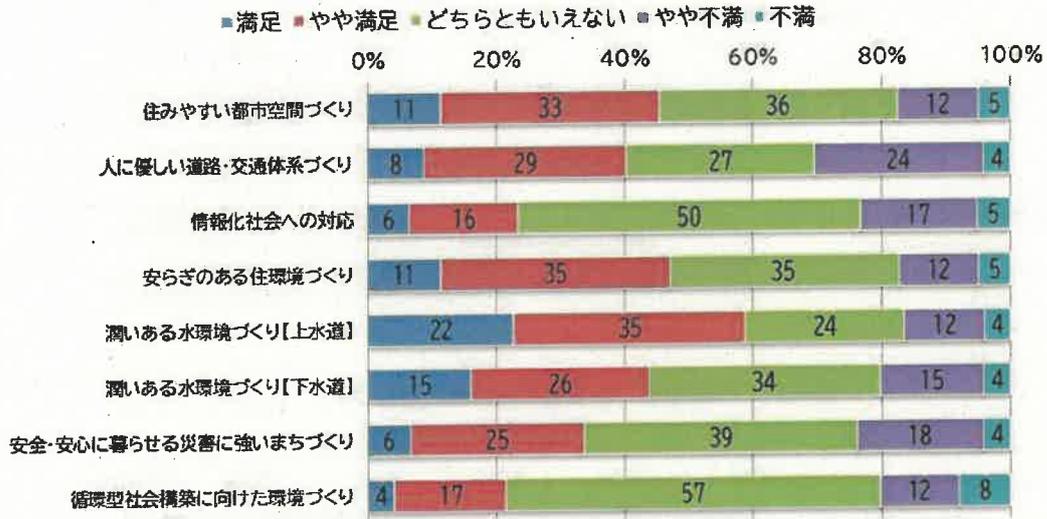


問3：小学校区

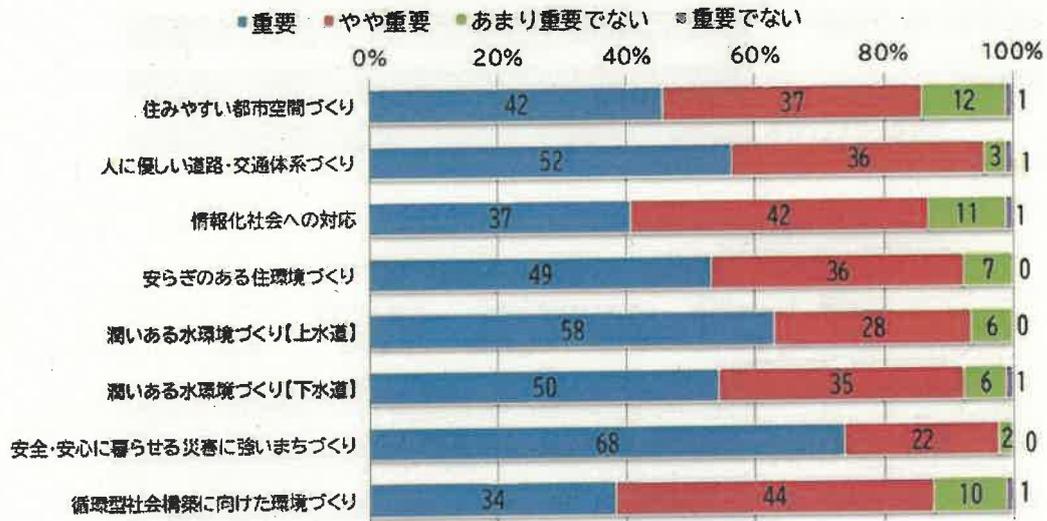
■ 南山崎 ■ 北山崎 ■ 郡中 ■ 伊予 ■ 中山
■ 佐礼谷 ■ 由並 ■ 翠 ■ 下灘 ■ 無回答



問4-1：「満足度」 ◇快適空間都市の創造◇



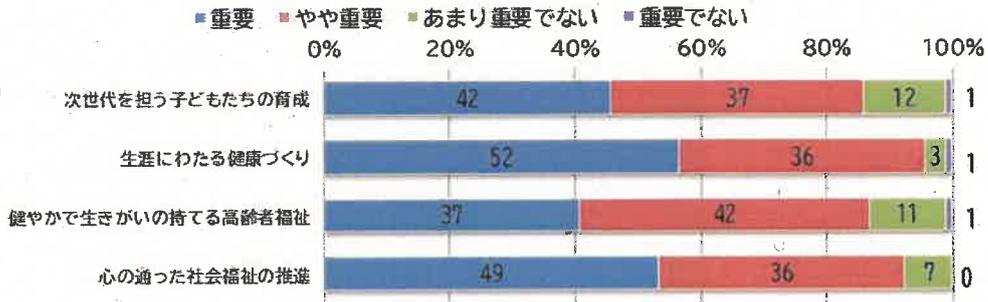
問4-1：「重要度」 ◇快適空間都市の創造◇



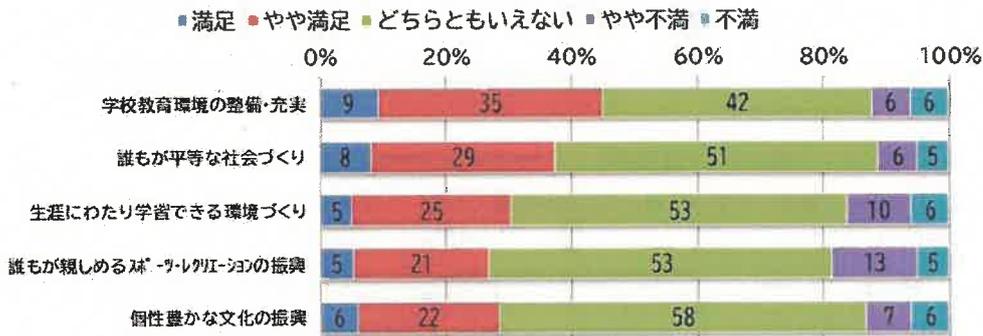
問4-2：「満足度」 ◇健康福祉都市の創造◇



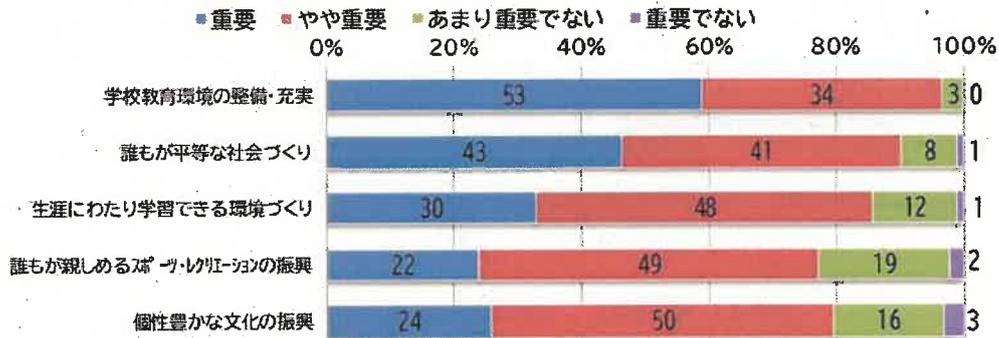
問4-2：「重要度」 ◇健康福祉都市の創造◇



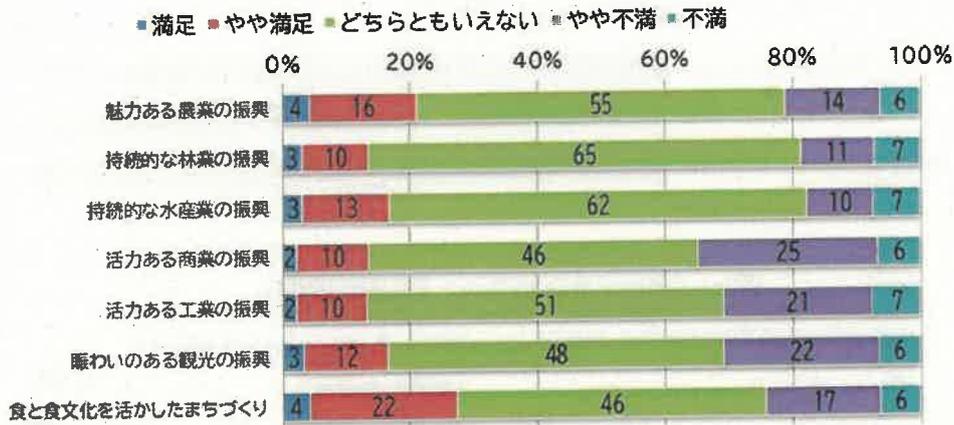
問4-3：「満足度」 ◇生涯教育都市の創造◇



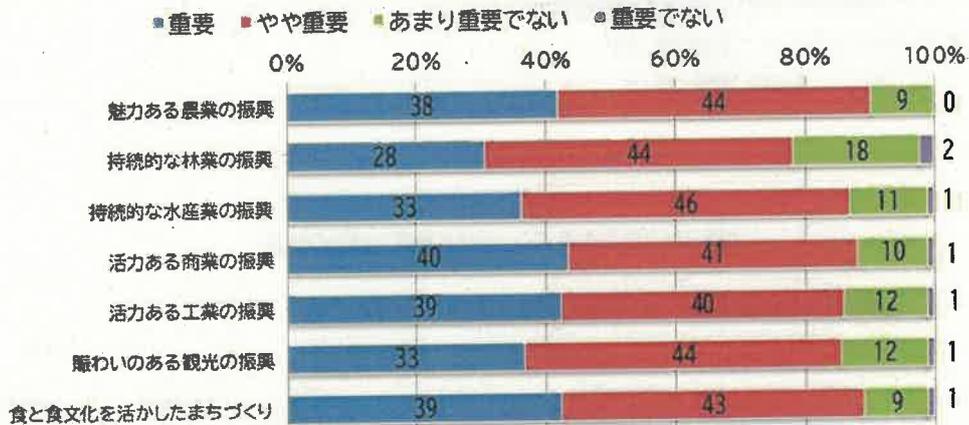
問4-3：「重要度」 ◇生涯教育都市の創造◇



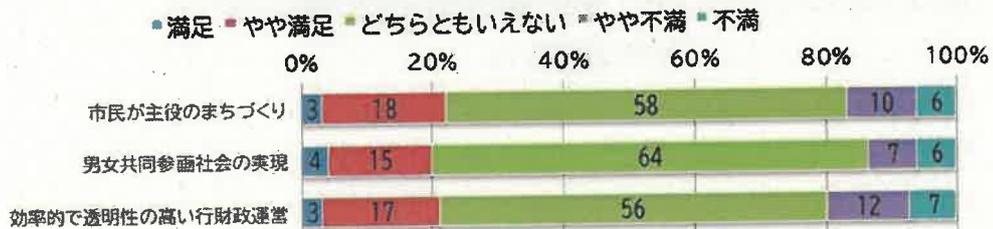
問4-4：「満足度」 ◇産業振興都市の創造◇



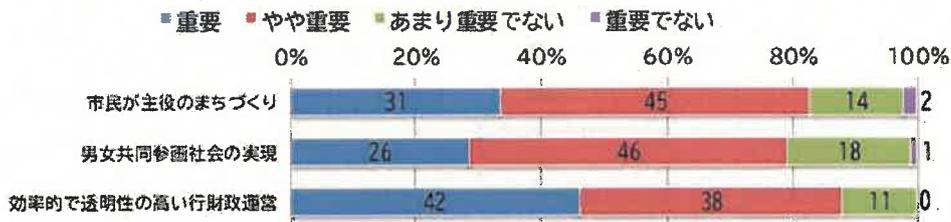
問4-4：「重要度」 ◇産業振興都市の創造◇



問4-5：「満足度」 ◇参画協働推進都市の創造◇

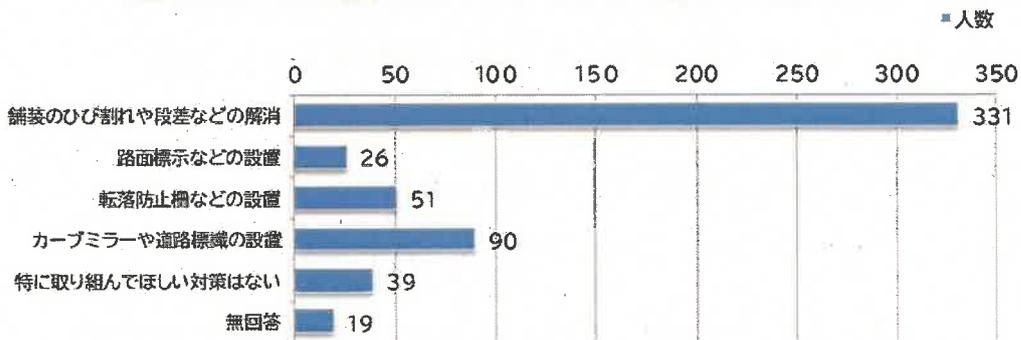


問4-5：「重要度」 ◇参画協働推進都市の創造◇



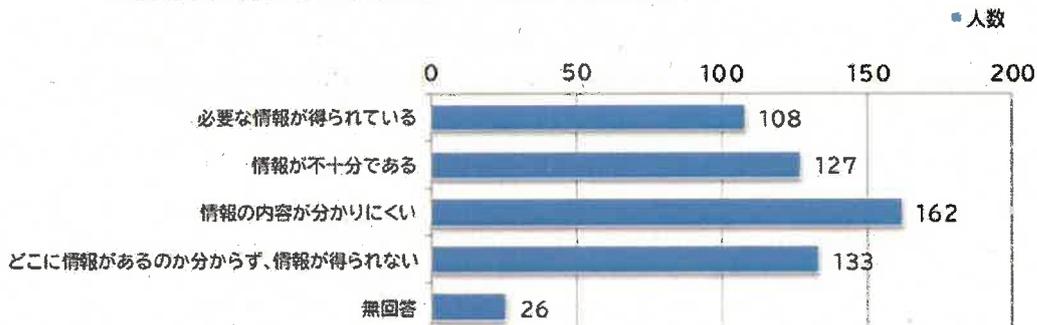
問5-1：◇道路・交通基盤の整備◇ 道路維持修繕事業

普段、利用している身近な道路(市道、農道等)について、優先的に取り組んでほしい対策は何ですか。



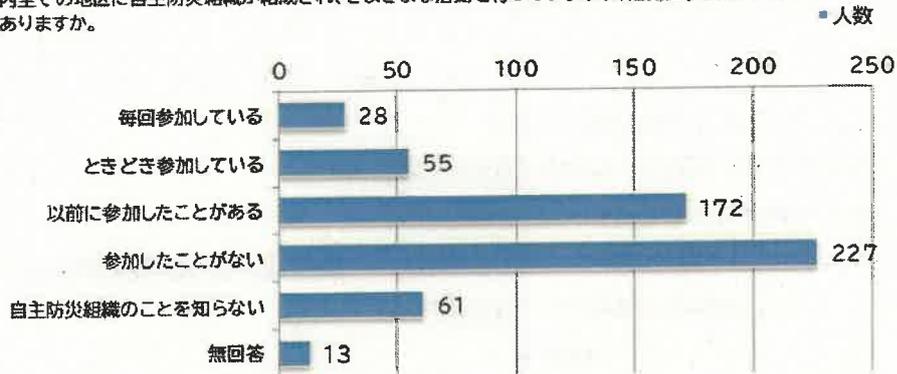
問5-2：◇住宅の整備◇ 旧耐震基準の住宅の整備

耐震診断及び耐震改修事業に関する必要な情報が得られていますか。



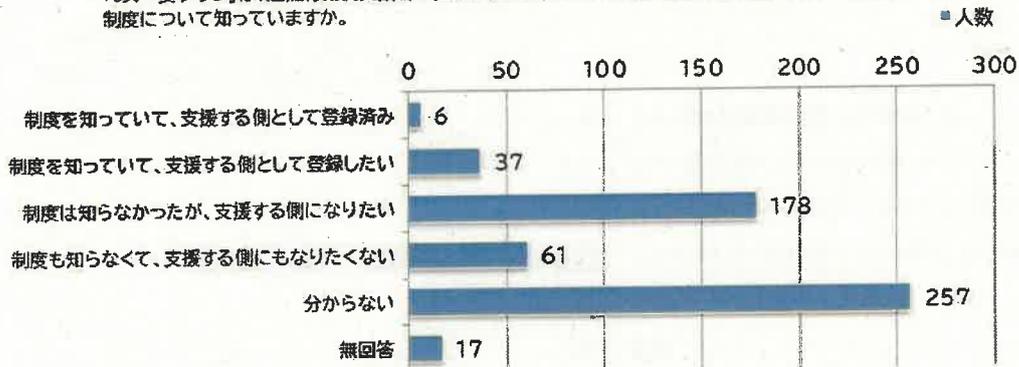
問5-3:◇消防・防災・安全の確保◇ 自主防災組織育成事業

市内全ての地区に自主防災組織が結成され、さまざまな活動を行っていますが、活動に参加したことはありますか。



問5-4:◇消防・防災・安全の確保◇ 避難行動要支援者避難支援事業

「あい・愛プラン」は、避難行動要支援者の把握と併せて、誰もが支援する側になれる制度です。この制度について知っていますか。



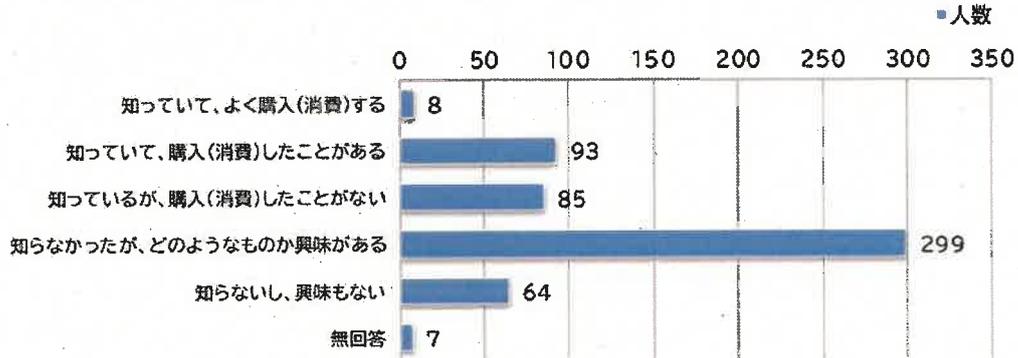
問5-5:◇自治基本条例の浸透◇ 伊予市自治基本条例

市では、地方分権(地域のことは地域で考える)社会に対応したまちづくりを進めるため、自己責任と自己決定による自治体運営のためのルールを定めた「伊予市自治基本条例」を制定していますが、この条例を知っていますか。



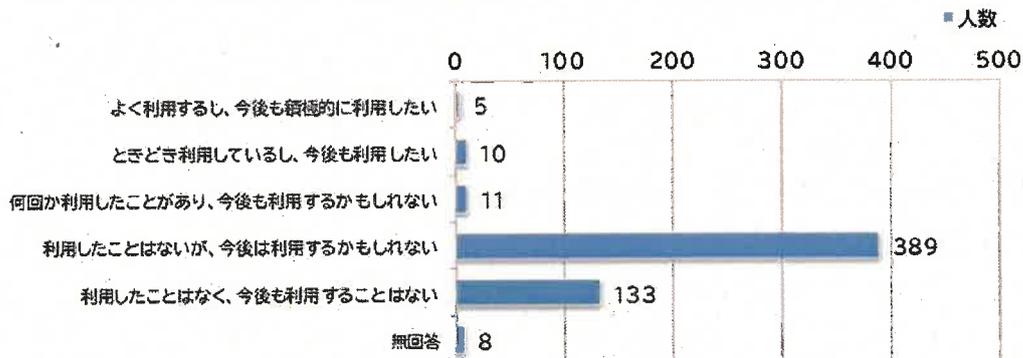
問5-6:◇ますます、いよし。ブランドの浸透◇ ますます、いよし。ブランド認定事業

「ますます、いよし。ブランド」認定品について知っていますか。



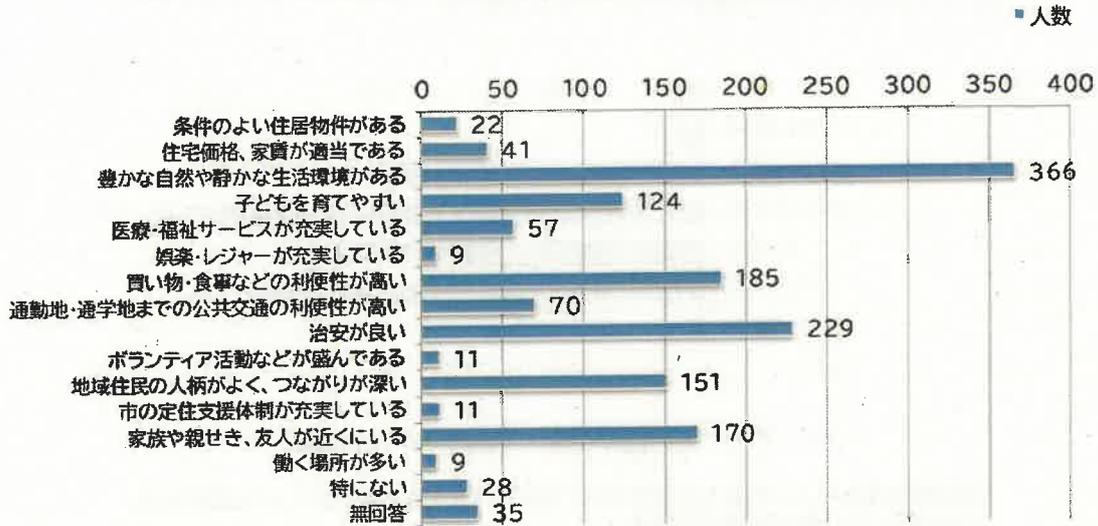
問5-7:◇地域公共交通の利用状況◇ 地域公共交通運行等事業

市営の地域公共交通機関(コミュニティバス・デマンドタクシー)を利用したことがありますか。



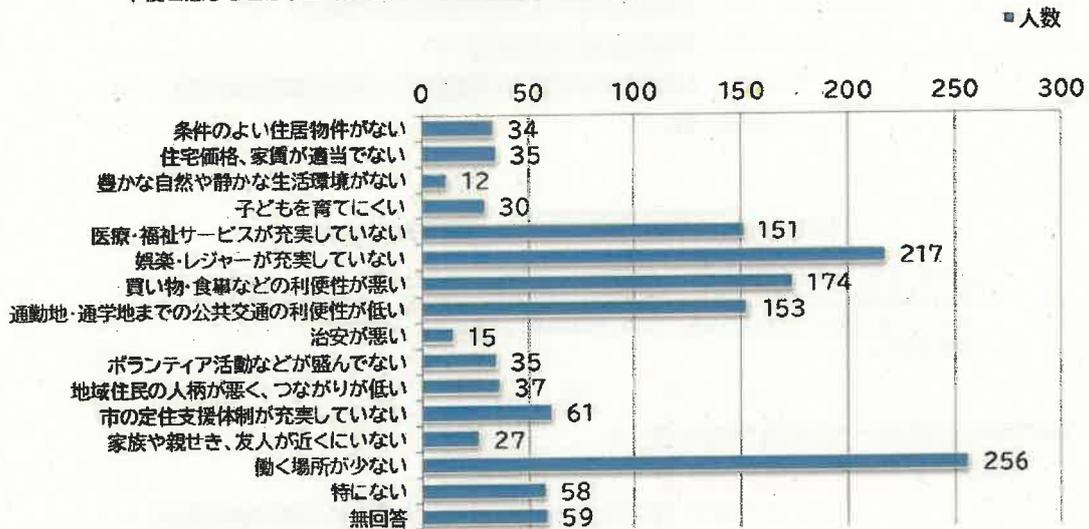
問5-8:◇参画と協働の推進◇ 総合計画等推進事業

住みやすいと感じるところをそれぞれ3つまで選んでください。



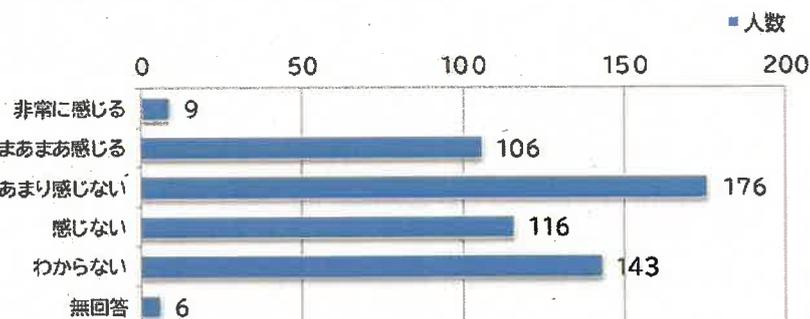
問5-8:◇参画と協働の推進◇ 総合計画等推進事業

不便と感じるところをそれぞれ3つまで選んでください。



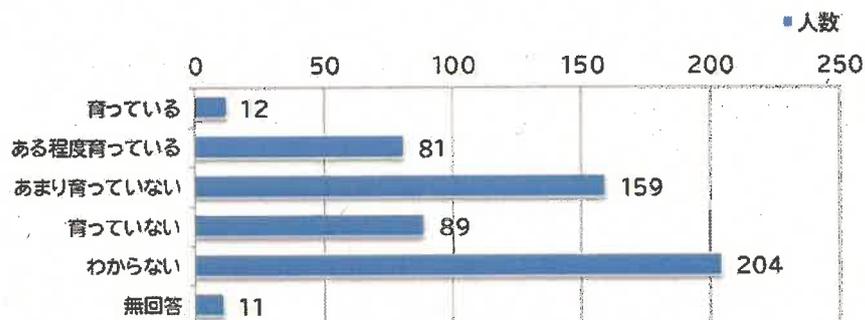
問5-9:◇参画と協働の推進◇ 参画協働推進事業

地域には、自治会、ボランティア団体、NPO法人等、様々な地域課題の解決を支援する団体がありますが、過疎化、少子高齢化による団体の人材不足が懸念され、今後は団体同士の連携や協力が不可欠であると考えます。あなたの地域では、各団体同士の連携がすすんでいると感じますか。



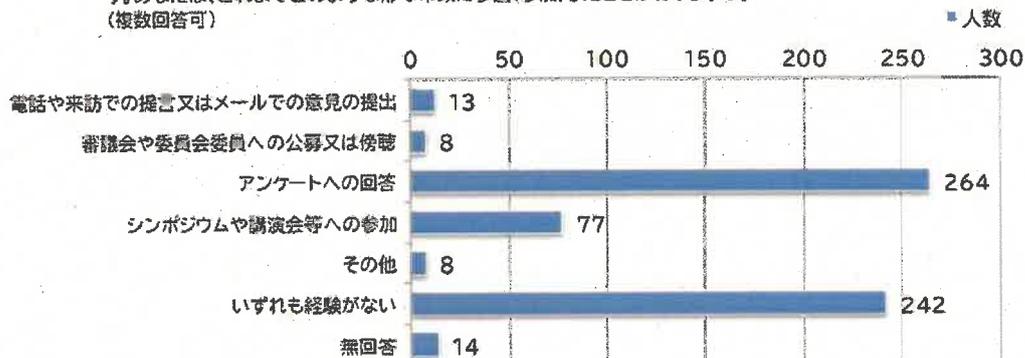
問5-10:◇参画と協働の推進◇ 地域リーダー育成事業

住民自治を推進する上では、自治会やボランティア団体、NPO法人等、地域を支えてくれる団体の維持、次の地域リーダーの育成が重要と考えます。あなたの地域では、各団体のリーダーが育っていると感じていますか。



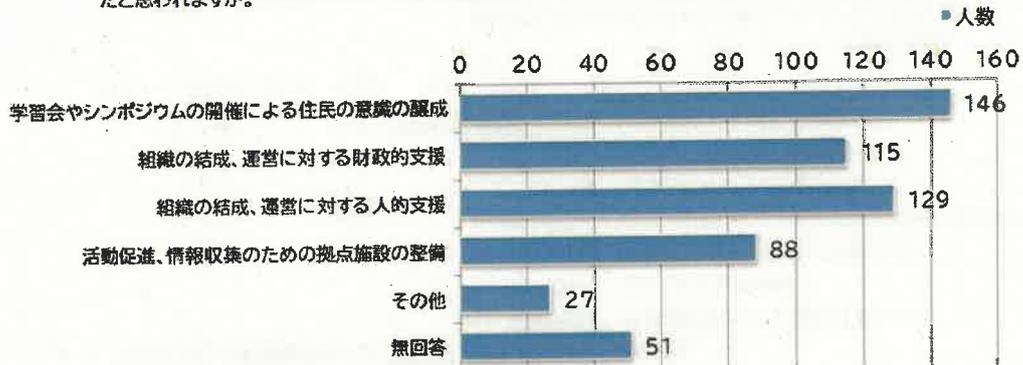
問5-11(1):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

過疎化、少子・高齢化の急速な進行、地域活力の低下等、一段と社会情勢が厳しくなる中、伊予市では自治基本条例を制定し、市民と行政が対等の立場で相互に協力し合う、参画と協働を推進しています。あなたは、これまでどのような形で市政に参画(参加)したことがありますか。(複数回答可)



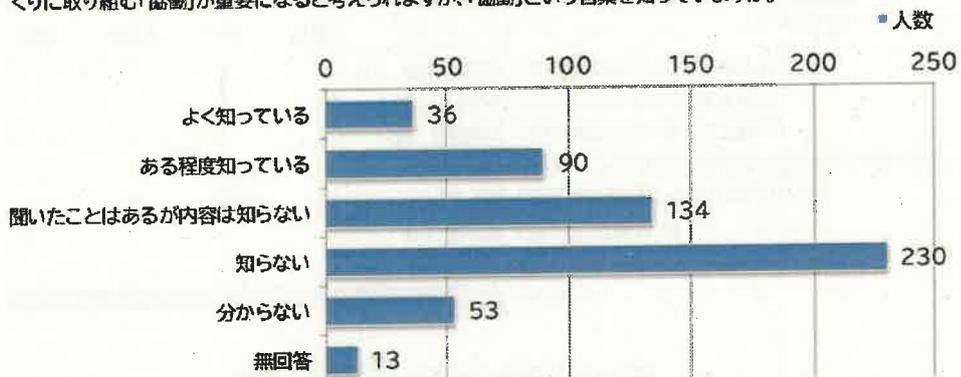
問5-11(2):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

伊予市では、住民自治組織を制度化することにより、市民が互いに助け合い地域の課題に自ら取り組む『住民自治の確立』を目指しています。今後、住民自治を充実・発展させるためにはどのようなことが必要だと思われますか。



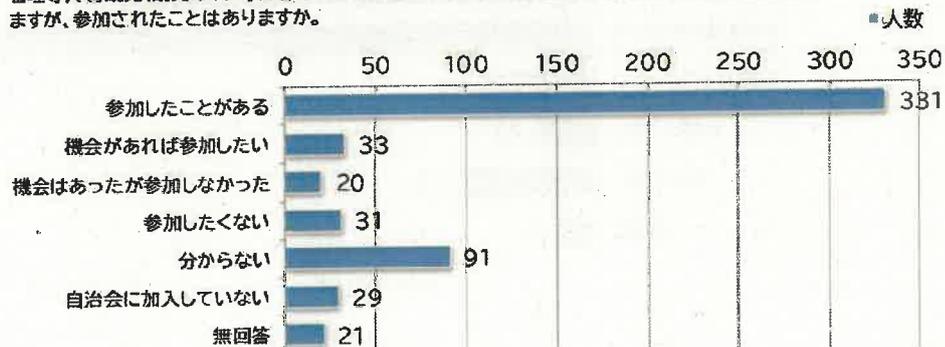
問5-11(3):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

個人の価値観が多様化・複雑化し、従来の画一的な公共サービスでは、必要とされるニーズに応えることが難しくなっています。今後は、市民の皆様と市が共に役割や責任を分担し、協力や連携しながらまちづくりに取り組む「協働」が重要になると考えられますが、「協働」という言葉を知っていますか。



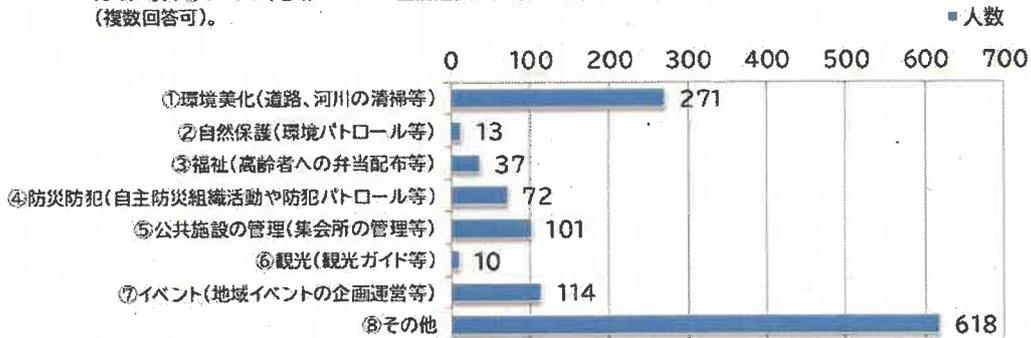
問5-11(4):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

身近な協働の活動には、市民の皆様が加入している自治会活動もあてはまります。自治会活動には、①環境美化(道路、河川の清掃等)、②自然保護(環境パトロール等)、③福祉(高齢者への弁当配布等)、④防災防犯(自主防災組織活動や防犯パトロール等)、⑤公共施設の管理(集会所の管理等)、⑥観光(観光ガイド等)、⑦イベント(地域イベントの企画運営等)、⑧その他様々なものがありますが、参加されたことはありますか。



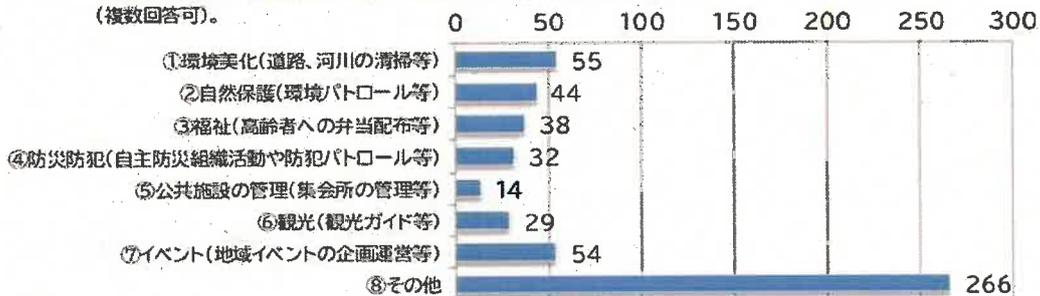
問5-11(4):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

参加したことがある。と答えた方で、参加したことがある活動内容は、
 ①環境美化(道路、河川の清掃等)、②自然保護(環境パトロール等)、③福祉(高齢者への弁当配布等)、④
 防災防犯(自主防災組織活動や防犯パトロール等)、⑤公共施設の管理(集会所の管理等)、⑥観光(観光
 ガイド等)、⑦イベント(地域イベントの企画運営等)、⑧その他
 (複数回答可)。



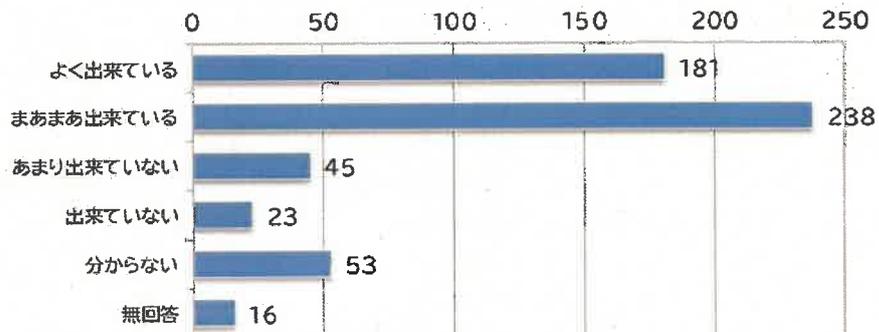
問5-11(4):◇参画と協働の推進◇ 住民自治推進事業

機会があれば参加したい。と答えた方で、今後、参加を希望される活動内容は
 ①環境美化(道路、河川の清掃等)、②自然保護(環境パトロール等)、③福祉(高齢者への弁当配布等)、④
 防災防犯(自主防災組織活動や防犯パトロール等)、⑤公共施設の管理(集会所の管理等)、⑥観光(観光
 ガイド等)、⑦イベント(地域イベントの企画運営等)、⑧その他様々なもの
 (複数回答可)。



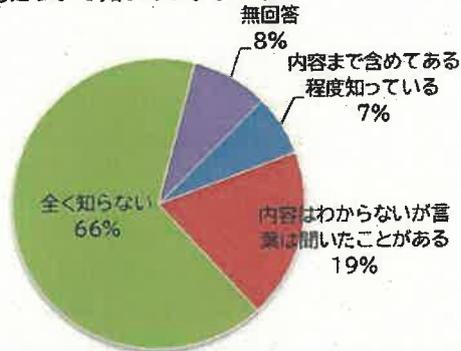
問5-12:◇職員の接遇向上◇ 接遇の充実

市職員は、市民の皆様と接する際に、あいさつや丁寧な対応が出来ていると思いますか。

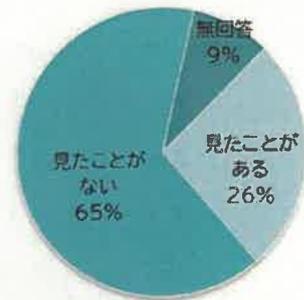


○ SDGs に関するアンケート

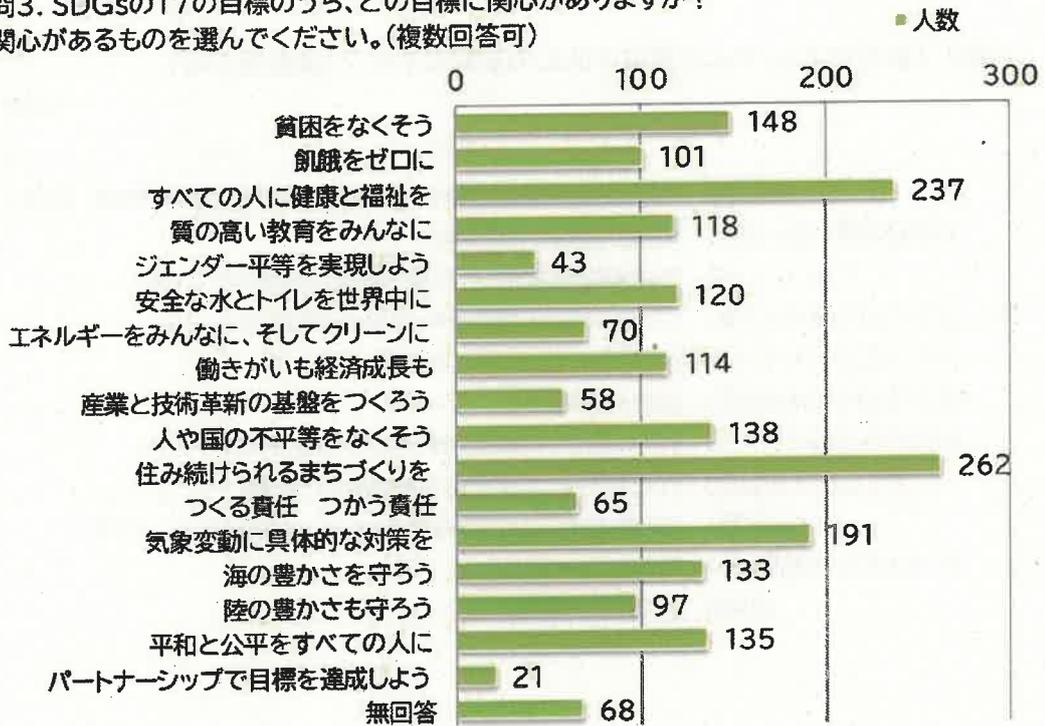
問1 SDGsについて知っていますか？



問2 SDGsのロゴ等を見たことがありますか？

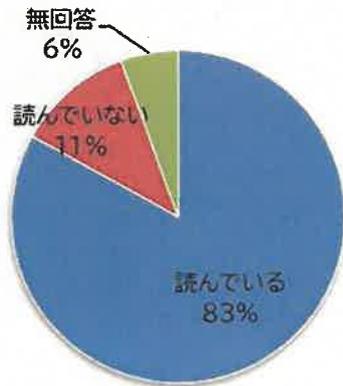


問3. SDGsの17の目標のうち、どの目標に関心がありますか？
関心があるものを選んでください。(複数回答可)

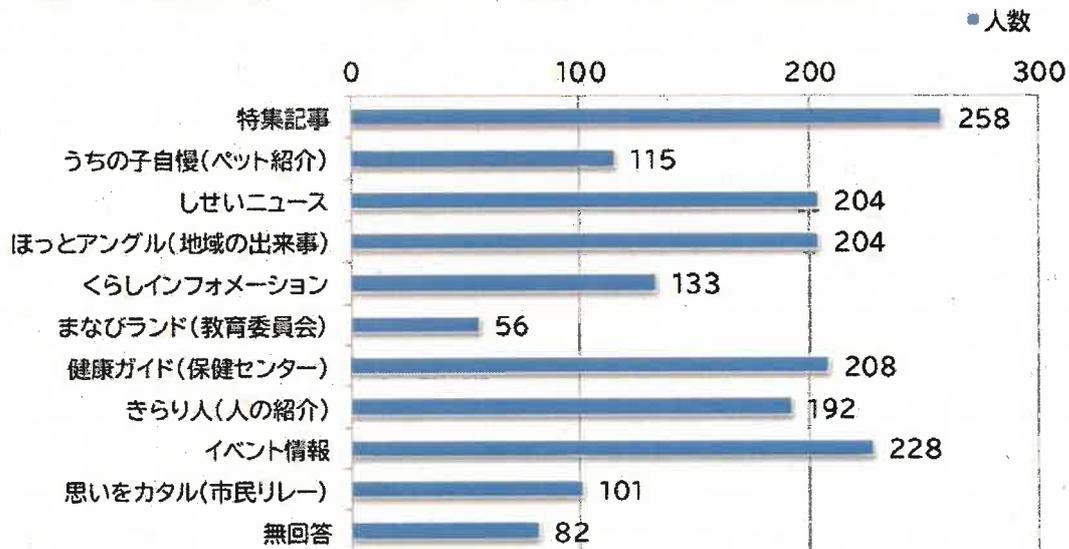


○ 「広報いよし」についての意識調査

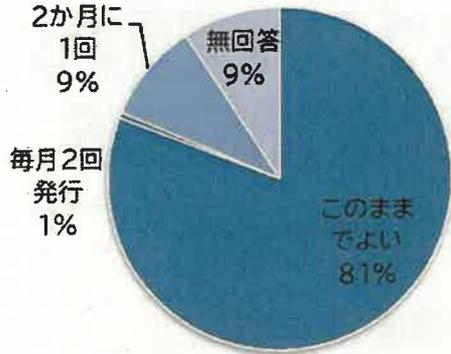
問1 「広報いよし」を読んでいますか？



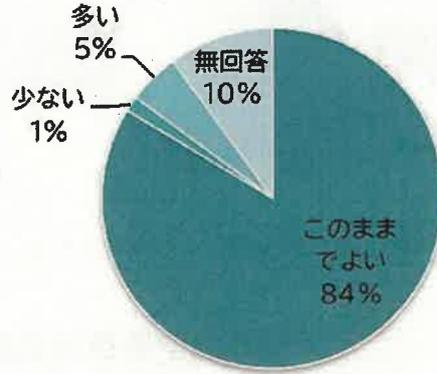
問2 「広報いよし」でよく読むのはどの記事ですか？(複数回答可)



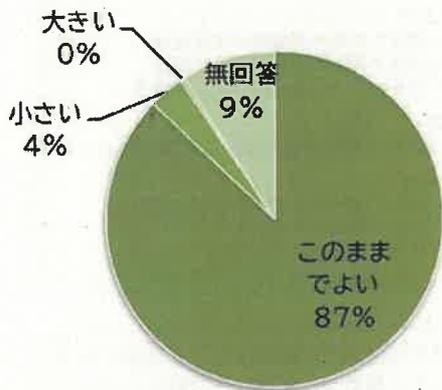
問3 発行回数について



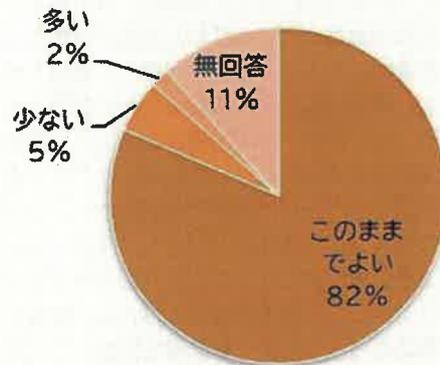
問4 ページ数について



問5 文字の大きさについて



問6 写真・イラストについて



問7 特集や連載で新たにどんな記事を読みたいですか？(複数回答可)



(2) 令和2年度市民討議会結果 (抜粋)



第二次総合計画

2020

協働のまちづくりを実現する
市民討議会 NEWS

発行：令和2年11月 伊予市未来づくり戦略室 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

第5回伊予市市民討議会を開催しました！

9月27(日)、伊予市役所4階大会議室にて、「協働のまちづくりを実現する市民討議会」を開催しました。平成27年から始まった市民討議会は昨年は実施できなかったものの、今年で5回目となります。今回は無作為抽出により2,000人の市民の皆様にご案内し、希望された29人の市民の皆様と、愛媛大学の学生10人、問題提起者8人の計47人にご参加いただきました。はじめに、市民討議会の目的と、これまでの市民討議会の成果について説明しました。次に2015年に国連サミットで採択されたSDGsについて、クイズ等を通して理解を深めました(p2~3)。その後、総合計画における重点改善分野である8つのテーマについて、それぞれ市民の方6人と職員2人から、問題提起と目指すべき目標を提案していただきました(p4~7)。昼食後、関心のあるテーマに分かれ、検討課題の具体的な問題や改善のためのアイデアをグループで出し合いました。席を2度替わりながら、他のグループの提案についても意見を出しました。元のグループに戻り、出された付箋を整理し「課題解決アイデアシート」にまとめました(p8~13)。その後、目標達成のためのアクションプランを「アクションプランスケールマップ」に整理し、その内容を全体の場で発表していただきました(p14~21)。最後に、参加した感想等をカードに記入していただき、終了しました(p22~24)。

現在、こうした無作為抽出された市民による政策策定を目的とした熟議プロセスの実践が世界的な広がりを見せています。とりわけ伊予市においては、市議会議員や行政職員も一市民として無作為抽出で選ばれて参加するという特色あるスタイルの市民討議会を積み重ねてきています。今回は議長も参加されました。今回の成果を施策に反映していきたいと思っております。

<市民討議会プログラム>

- 1：はじめに
- 第1ラウンド
ステップ2：グループ対抗クイズ含概
ステップ3：SDGsの内容について説明
ステップ4：8つの検討課題を問題提起
- 第2ラウンド
ステップ5：総合計画とSDGsを関連付けよう！
- 第3ラウンド
ステップ6：アクションプランの提案
ステップ7：グループ発表
ステップ8：まとめ

伊予市では第二次総合計画を4年前に策定しました。合併した平成17年には人口4万人でしたが、今は36,500人、15年後には3万人を切るという推計もされています。伊予市において、3万人が住み続けられる自治体を目指していこうと様々な取組をしています。

貨物基地の観光資源化、サイクルマップづくり、五色岬浜浜公園の魅力発信、ふたみシーサイド公園の改修、クラフトの里の魅力づくり等、6つの校区それぞれに、企業のカモ借りながら事業を進めています。伊予市にはまだまだ潜在能力があると思っています。

この伊予市をどうしたら未来につないでいけるのか、それぞれのお立場で、皆様の目を見た様々なご提言を参考に、行政としても次のステップに進みたいと思いますので、よろしくお願いたします。



[武智邦典市長]

伊予市総合計画とSDGsを関連付けよう！

検討課題と達成目標を決めた後、より具体的な問題や改善のためのアイデアをポストイットに書き出し、SDGsとの関連づけをしながら内容を整理しました。

1 検討テーマ：防災訓練の参加率向上

グループ 達成目標：地域の特性に合わせた防災訓練の実施→地域防災リーダーの育成

目標4 質の高い教育をみんなに

- リーダーをしっかりと決めて
- 防災リーダーの育成（若い者の防災意識の向上、防災訓練等への参加）
- 災害の危機感を感じられる体験的教育

目標11 住み続けられるまちづくりを

- 災害種類(火災、地震など)ごとの避難経路マップの作成
- 地域住民一人ひとりに「避難カード」を用意する（名札のようなもの）。

目標10 人や国の不平等をなくそう

- 防災専用の伊予市発のメールアカウントとLINE IDを作り市民に登録を呼びかける
- ↓
- 災害発生時にも有効。防災訓練の呼びかけにも使え、若年層もつながれるかも？
- 防災訓練の発信をメールやLINEで。
- 電柱に「現在地の避難場所は○○」の表示をする（海拔○○メートルの下あたり）」
- 災害時の支援物資の配布方法の確立→防災訓練で物資配布の訓練も行う。
- 各家に有線を！

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 近所の方の名前、家族の人数を知る。
- 各地域でのコミュニティの場をつくり、一人ひとりの名前を知る。
- 賞味期限になる備品で炊き出しを行う。
- 「たきだし」で参加率向上？
- 各地域の特性と起こり得る災害を共通認識として住民が把握する。
- 地域住民と外部の専門の方による地域の課題の検討、協議。

2 検討テーマ：更なるごみの減量化。再利用化の必要性。

グループ 達成目標：各地区にリサイクル施設の設置→分別・リサイクルの学習・指導機能

目標12 つくる責任つかう責任

- ごみ置き場を常にきれいにする。
- ごみを日常生活で上手く活用
- ごみステーションの型式を市である程度、統一してほしい。
- ごみを出さない方法。稲わら、麦わらの活用。
- ごみ排出量によって減税措置をする。
- 生ごみ、ぎゅーっとしぼり！（燃料の削減）
- 残った生ごみを集め、堆肥化できる仕組み。
- 分別の正しい理解、判断。
- 使える電化製品を市役所が引き取ってくれる。
- 近所の人と必要な物を交換する。
- 紙類の結束はビニールテープでなく、紙のひもでしぼる。
- 段ボール紙のリサイクルで景品、金銭と交換。

目標12 つくる責任つかう責任

- 建設時に使用する材料を再生品&土に帰る材料に。
- スーパー、販売店に家庭ごみを分別し、持ち込める仕組みを作る。
- 各家庭でごみ排出量を測定可能にする。
- ごみ処理の達成の分かる表示。
- ごみの重さを量る→一定の重さ以下の排出量であれば、市から特典等がある…
- リサイクルするとお買い物ポイントがもらえる（スーパーなどで）

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

- リサイクルセンター→高齢者の雇用創出。市民交流の場。
- リサイクルを必要とする者との交流の場。リサイクルの技術、手法を教える場。
- 建築自体もリサイクル材料。

3

検討テーマ：防災訓練の参加率向上

グループ

達成目標：・声かけ、あいさつ ・地域の連携
・グループの付き合い ・運動できる場の提供（集会所など）

目標3 すべての人に健康と福祉を

- 集会所などでサークルなどをする。
- 集会所などでカラオケ、花、茶などをする。
- みかんまる体操、健康体操、笑い、ヨガなど、集会所で行い、又参加したいと思えるように！
- 朝のラジオ体操、みかんまる体操を定期的にする。
- ラジオ体操を努めてして体を鍛え、みんなとコミュニケーションをとる。声かけする。
- みんな散歩、散歩する。
- グラウンドゴルフ（会員約100人）、北山クラブ（本を作成）
- グラウンドゴルフ場（しおさい公園）の活用
- グラウンドゴルフをつくる事
- フェイスブック

目標11 住み続けられるまちづくりを

- 高齢者の家をまわるキッチンカー
- 若い人と高齢者が一緒に集える場を持つ。
- サロン
- 地域の若者との交流が増加
- 一人暮らしの方に声をかけて、サロンに参加してもらって、近所で助け合っている関わりを深める。
- 回覧板を回すときに声かけをする。
- 集会所で活動できるといいかなあと思う。公民館だと遠くて参加出来にくい。
- 地域の小学生と地域のゴミ拾い
- 地域共同で使える畑をつくり、共同栽培。
- 高齢者が移動する手段（足）を充実させる。
- できる範囲で自分でできることをする。自分で調理して食べる事。
- 自分から「年だから」と言わず、人とのふれあいに出て行く様に努める。
- 施設に入らないよう、がんばる。
- 地区ごとにより細かくグループ分け（パティ制等）
- 高齢者（独居宅）の家の確認をする。地図をつくる（地域で）。
- 活動場所に空き家を活用する。
- 空き家を使った運動教室。
- コロナ禍でも集まれる環境を。
- 公民館の使用料をタダにする。

目標4 質の高い教育をみんなに

- PC、スマホの使い方を教える。
- 中学校でPCスキル等、情報リテラシー教室
→高齢者も参加
- スマホ教室の実施（孫と連絡が取りたい）
→孤独死防止

目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- インターネット環境の整備
- オンライン通話。ネット環境を整えて、いつでも話ができるように。
- 活動紹介を活発に行う。

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

- 地域住民総出のイベント等の開催
- 地域でお花見
- 地域内を散歩するプチイベントを行う。
- 歩こう会（ウォーキングクラブ）の結成!!
- 運動だけでなく、コミュニケーションをとる機会をふまえる（お茶会）。
- 学生が運動指導を行う。
- 高齢者の運動会（運営は若者）



話し合いの進め方

- ① 関心のあるテーマを選び、8つのグループに分かれました。
- ② グループごとに検討課題と達成目標を決めました。
- ③ より具体的な問題や改善のためのアイデアをポストイットに書き出しました。
- ④ 2回の席替えをし、他のグループのテーマに対して、課題解決につながる具体的な提案を出し合いました。
- ⑤ 元のグループに戻り、SDGsとの関連づけをしながら内容を整理しました。

4 検討テーマ：心の通った社会福祉の推進
 グループ 達成目標：世代間の関係構築

目標1 貧困をなくそう **目標2 飢餓をゼロに** **目標3 すべての人に健康と福祉を**
目標4 質の高い教育をみんなに **目標5 ジェンダー平等を実現しよう**
目標11 住み続けられるまちづくりを **目標12 つくる責任つかう責任**

○民具、昔話、歴史と人の一生を伝える！質の高い教育。
 ○学校教育にもっと福祉を。
 ○高齢者の知恵を子どもに教える機会、場の提供。
 ○集まる場所の環境
 ○男性の参加も促したい(参加するきっかけづくり)
 ○社協の事業でいきいきサロンのますますの推進を。
 ○あいわ ボランティアの会。発想はよいが？
 ○若者と高齢者が共に行うイベント数の増加

○子ども食堂
 ↓
 地域の食材 中学生のお手伝い 時間のあるシニアのボランティア
 ↓
 ・ボランティアは小学生でもできる。
 ・参加者には出来る事をしてもらう
 (手伝い)

目標11 住み続けられるまちづくりを

○ネット環境 ○各家族社会の中で、私共は高齢者3人暮らし。子ども達、孫達は年に2回程度の顔見せ。心細い。心の通いにくい社会。
 ○災害時にも声掛けしやすい関係づくり
 ○無理のない中ででの活動の継続。住んでいる地域の環境も？

6 検討テーマ：伝統文化の発信
 グループ 達成目標：文化を知り、広げる

目標2 飢餓をゼロに

○県外から来た学生と協力して、改めて伊予市の魅力を知る。
 ○長年、伊予市に住む人が子どもたちに"伊予市の魅力"を伝える機会を作る。
 ○新しい文化の発見、発展
 ○他県、他地区の人間に伊予を評価してもらう。他人に視点による発掘。

目標11 住み続けられるまちづくりを

○地域住民による文化財ガイドの実施

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

○お祭りに女性は参加できない。広げる可能性。

目標4 質の高い教育をみんなに

○学校のHPにのせてもらえるように、コロナが収束すれば連携イベントを催して、その後、担任にアップロードしてもらう。
 ○小学校(伊予市に限らず)にプリント配布(家庭数)することで、1人に対して渡せば、2人、3人、4人にわたる可能性がある。
 ○小学生、用事への伝え方
 ○古い文化は新しい文化と混ぜて残る。または発信できると考える。

目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

○若者が知る機会を作る
 ○映画撮影ロケ

- 【その他】**
- ◆関わっていない人をどう巻き込むか、その方法？
 - ◆市役所のホームページの情報充実
 - ◆文化活動団体の整理
 - ◆文化、行事を具体的に取り上げ調査、研究する。
 - ◆民間レベル、行政レベルで発信。
 - ◆文化資源を活かしたツーリズム
 - ◆有名YouTuber(伊予市の)数名に広めてもらう。

- ◆ドローンを使用した映像撮影
- ◆インパクトの残る発信の仕方(魅せ方にこだわる)
- ◆若い人たちのボランティアもしくは学生を募って、その人たちがInstagram、Twitter、YouTubeに週に2回アップロードする。
- ◆文化財を増やしていく。
- ◆建物のDataの残し方。SNS、YouTube

5

検討テーマ：生涯にわたり学習できる環境づくり

グループ

達成目標：施設（学習の場の充実）と組織のネットワークづくり

・各種団体（公的）、NPO法人、地域、町内会、民間サークル
※新しい組織を

目標4 質の高い教育をみんなに

- 中学校の生徒とPC、スマホ学習
- 市内の教育施設、小・中・高の施設連携(実習室など)
- 専門学校、大学と連携
- 大学とのタイアップ（内容、講師）
- 部活にない競技や芸術を学ぶ小・中学生にスペースを提供。利用しやすく。
- 図書館の蔵書数の増加
- 図書の実用を図る
- 図書館の本の出張貸し出し

目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- 学習する情報提供。テーマ毎に整備して情報発信（IT,web）。歴史、文化的。コンテンツの発信（Web.SNS.インスタ）
- 各種講座の広報を定期的に。
- 公民館のインターネット整備（TV会議等）
- インターネットを利用した学習の増加
- 施設のIT環境の整備（公民館等）
- 施設（教育）のIT化の整備
- Wi-Fiの充実

目標11 住み続けられるまちづくりを

- その施設に行く時の交通手段があれば、より利用しやすい。
- 足が無くても行きたい人は、どの様にして動いてもらうか。
- サテライトの設置
- 公民館以外の利用増（市の施設）
- 公民館以外での学習のできる場の提供
- 空き家等を利用して学習（なんでも）が出来る。
- 住民が自然と集まるスペースづくり
- 公民館の利用率の増加
- 時間も色々あってもいい。平日、昼間、夜、日祝など。
- 利用を高める為に無料に戻すなど。
- 学習結果の発表の場作り
- 普段から話し合い（ディスカッション）の場として提供
- 地域の人や技能などの利用
- 社会教育（公民館活動を中心に）を推進できる専門職の育成
- 生涯学習を支援する組織作り
- 住民自らが地域課題に取り組むための組織づくり

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

目標8 働きがいも経済成長も

目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- スマホ教室の実施
- PCスキル教室の実施
- 住民の学習意欲を高めるための学習プログラム作り
- 主婦の社会復帰のサポート（学習）
- 副業につながる学習内容の講座
- お試し講座があるといいな。
- お友達と行けるもの（学習内容によって）
- 健康維持促進のための食事、軽運動教室
- 学習を促すパートナーづくり（コーチング）
- 催しを公民館単位で行う。
- 芸能文化学習（イベントコンサート企画）
- 体験型学習（ワークショップ等）
- 体験学習の充実
- 公民館等施設の活用。
- 遊休地を用いた農業体験学習（宿泊プランなど）
- 他地域の取組を知らせる

席を替わりながら
たくさんのアイデアを
出し合いました！



7

検討テーマ：・新規事業の創造、企業誘致
・働きがいのある人間らしい仕事ができる

グループ

達成目標：・企業誘致の実施
・働き口の確保
・地域経済循環率100%

目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- バイオマス発電
- バイオマスボイラーの普及事業の検討

目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- 「食」関連のサテライトオフィスを開設する。
- ジビエ作業所。今は全部焼却処分している。イノシシ。
- 「ローカルビジネスベンチャー塾」を開設する。
- 「IT、デジタル人材養成学校」を誘致する。
- 強い企業の機械などをつくる企業の誘致。
- 地場産業を応援する。
- 伊予市の強みである農業、水産業をもっと拡販できる、新しい仕組みづくりが必要。
- 下灘ラーメンをつくる。
- 伊予市には食べ物を提供する場がない。花かつお、じゃこ天ではないもの。
- 伊予市の食材のみを取り扱う企業（店）
- 伊予市の食材をネット上で売っていくスタイルを新しい企業がもつ。
- 絵や音楽などアートの得意な愛媛の人材を集め、発信する。
- 地域の企業を有効活用する。
- ハモ○○でB級グルメ出店。
- 伊予市の良さを伝えるため、伊予、双海、中山など各地域で連携し、観光コースの整備とコースづくりをし、観光での収入upと働き口の確保を実現させる。

目標8 働きがいも経済成長も

- かつおぶし関連の商品（おかしやその他）を増やす。
- 市や行政が市の強み「カツオ節産業」などをもっと広めることに力をいれる。
- 働きやすい、生活しやすい土地であることを知ってもらえるようにアピールする。
- 兼業サラリーマン、個人事業創造。飲食、カフェ、古本屋さん。
- 大規模なインターンシップ就活イベントを行う。
- 伊予市が生産したものを売るための戦略にたけた人材を派遣する（ネットを駆使して、地方で成功事例のある人）。

目標11 住み続けられるまちづくりを

- 伊予市で起業する人の支援のあり方を考える。
- 故郷に帰って来たいと思うものはないでしょうか。遊園地、海浜公園など、桜を植えてみるとか。
- 湊町の空き地に、公園は出来ないものでしょうか。
- 通勤時間、短め
- 釣スポットをつくる!!
- 娯楽施設を増やす（アウトドア系）



1グループ



2グループ



3グループ



4グループ

8

検討テーマ：賑わいをつくるためには、そもそも"観光とは"を考え直す必要があるのでは？

グループ

達成目標：・伊予市の関係人口、交流人口（伊予市ファン）増加
・伊予市の賑わい、盛り上がる。
・中山は道の駅も一過性。桜も見るだけで何も無い。

目標4 質の高い教育をみんなに

- 伊予市を修学旅行の行く先に！コロナだからこそ近場で。
- 牛ノ峯のお地蔵さんを潮風ふれあい公園におおす！文化財になる？
- 河原学園中山校
- 伊予市の小さなまつり、イベントを探す（昔の）

目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- SNSの写真、動画の充実で、伊予市の見せどころをネット上につくる。現実はあるから…（笑）
- 電車で行ったその先
- 中のインフラを整備

【その他】

- ◆尾道は何も特にないのになくさん人がきて歩く。
- ◆地域ブランディング
- ◆地域ごとに88ヶ所があるとか。小さなよいところはあつなぐ
- ◆店に来た人に、ちがう情報を渡す必要。
- ◆観光ルートを作る。ふたみ満喫きっぷ。
- ◆利便性を体感できるツアー
- ◆初めて来た人でも分かるMAPを作る。
- ◆観光客用の伊予市のマップを作る。
- ◆下灘駅にMAPを置く。
- ◆目的を店にする。
- ◆受け入れる側とのギャップ。ヤル気、できるコトはいい。

目標8 働きがいも経済成長も

- お店を磨きあげる。
- 下灘駅+α 滞在する理由。

目標14 海の豊かさを守ろう

目標15 陸の豊かさを守ろう

- 木々の間に紅葉でもあったら…
- 地元の人を置いてけぼりか？
- 気候の穏やかさの可視化

目標12 つくる責任つかう責任

- 空き家とやりたいことがある人をつなぐ。
- 空き家、店舗を1日だけでもあけてもらう。
- 荒地、空き家、店舗をパブリックに開く！
- 他の市町村と連携することで1泊してもらう。
- 今、空いている家や施設を活用してゲストハウス化。
- 宿泊施設を増やす。
- ゲストハウス

- ◆スポーツなど、どこでもできるものを観光の売りに変える。
- ◆宿泊施設の面白さを売りにすることで、どこか観光地を求めるのではなく、施設の充実を図る！観光。
- ◆有名な文化財をつくることで、それを目的できっかけはできる。
- ◆伊予灘ものがたり



5グループ



6グループ



7グループ



8グループ

2 伊予市総合計画策定の過程

【策定過程】

	月日	伊予市総合計画 策定審議会	伊予市 SDGs 推進 プロジェクト※	市民満足度調査・ 市民討議会等
令和 2年	7月			11日～24日 市民満足度調査
	8月		25日 第1回	
	9月		18日 第2回	27日 市民討議会
	10月	16日 第1回	26日 第3回	
	11月			
	12月	4日 第2回	18日 第4回	
令和 3年	1月	12日 第3回	29日 第5回	1月15日～2月3日 市民意見公募手続
	2月	5日 第4回		
	3月			

※ 伊予市 SDGs 推進プロジェクトは、市職員 12 人による検討会議

市民討議会の様子



SDGs 推進プロジェクト会議の様子



総合計画策定審議会前田会長からの答申



3 答申書

令和3年2月5日

伊予市長 武智 邦典 様

伊予市総合計画策定審議会
会長 前田 眞

第2次伊予市総合計画後期基本計画について（答申）

伊予市総合計画策定審議会に諮問された「第2次伊予市総合計画後期基本計画の策定」に関して、様々な分野で活躍している13人の委員が、総合計画前期基本計画や第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略における取組結果、また、市民の皆さんの意見も踏まえながら、4回の審議会を開催し、慎重な審議を重ねてまいりました。

持続可能な開発目標、いわゆるSDGsの考えを新たに取り入れたことにより、従来の縦割りの組織の中に横串が入り、横の連携強化、また重複する事業の解消に有効に機能すると期待します。情報通信技術の進展など目まぐるしく変化する時代を迎え、また新型コロナウイルスの世界的な流行により、新しい生活様式が求められる中、市民の声を取り入れた3つの未来戦略をはじめ、5つの基本目標と24の基本施策を掲げており、施策の基本的方向及び体系として妥当であると考え、ここに答申いたします。

将来像である「まち・ひと ともに育ち輝く伊予市」を実現するとともに、人口が減少する社会においても、市内に住む全ての人がいきいきと幸せに暮らせるよう、本審議会の審議経過と答申を十分に尊重し、行政運営に全力を傾注されることを要望します。

なお、基本計画の推進に向けて、以下の事項を答申の付帯意見とします。

記

○ 未来戦略プロジェクト

計画を進める中で、市民の要望や提案も多様化してくると思われませんが、いかに意見を取り入れて、対応していけるかが、これからの市政にとって重要になります。市民の声をまとめた市の課題を解決するため、縦割りの組織ではなく、組織横断的に解決に向けた取組を進めていく必要があります。

○ SDGs ゴールに向けた取組

世界の共通言語であるSDGsは今後ますます重要性を増すと思われまます。市の内部はもちろんのこと、市民や地元企業に向けたSDGsへの取組の周知を徹底し、市の実情にあった課題解決に向けて取組を進めていく必要があります。

○ 協働の推進（パートナーシップの構築）

計画の推進に当たっては、行政のみならず、市民や地元企業など、様々な関係団体を巻き込みながら実施することが重要です。市民や企業との対話を通し、誰もが我がごととして課題に立ち向かうことができるよう、それぞれができること、できないことを積極的に発信できるような、市民と距離の近い行政運営を望みます。

4 伊予市総合計画策定審議会条例
伊予市総合計画策定審議会条例

平成17年7月1日条例第196号

(設置)

第1条 本市の基本構想及びこれに基づく基本計画（以下「総合計画」という。）の策定並びにその推進に係る重要な事項に関し、調査審議するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、伊予市総合計画策定審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 審議会の任務は、次のとおりとする。
(1) 総合計画の策定及び推進に関すること。
(2) 市民の行政への参画に関すること。
(3) 行政改革に関すること。
(4) その他市長が特に指示する事項

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内で組織する。
2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。
(1) 市議会議員
(2) 市職員
(3) 市民及び学識を有する者で市長が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から翌々年の3月31日とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に、会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。
2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。
2 審議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
3 審議会は、その任務を遂行するため必要があると認めるときは、委員でない者を会議に出席させ、意見を述べさせることができる。

(分科会)

第7条 審議会に、必要に応じ分科会を置くことができる。
2 分科会に属すべき委員は、会長が指名する。
3 分科会に、座長1人を置き、分科会に属する委員の互選によりこれを定める。
4 座長は、分科会の事務を掌理し、分科会の審議の状況及び結果を会長に報告する。
5 座長に事故があるときは、分科会に属する委員のうちから座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

5 伊予市総合計画策定審議会委員名簿

	氏名	所属	備考
会長	前田 眞	愛媛大学社会連携推進機構 教授	学識経験者(学)
副会長	河合 浩二	総務部長	
委員	大西 聡	伊予小学校校長	学校・教育
//	岡田 智恵	Atelier Chie (アトリエチエ) 代表	文化
//	沖田 誠二	伊予消防等事務組合消防本部 消防長	消防・防災
//	亀岡 功生	JA えひめ中央営農部部長	農林漁業(労)
//	高岡 公三	伊予銀行地域創生部長	(金)
//	田中 美和	伊予医師会伊予市支部支部長	医療
//	出来 和人	伊予市社会福祉協議会事務局長	福祉
//	土井 一成	伊予商工会議所専務理事	商工業(産)
//	西田 和眞	税理士	(士)
//	東瀨 則之	松山大学経営学部教授	学識経験者(学)
//	村上 縁生	伊予市児童センター「みんくる」 センター長	子育て

(五十音順、敬称略)

カッコ書きは、総合戦略における産官学金労言士の分野を指す。



市章

「い、よ」の文字をモチーフに豊かな緑や海などの自然や太陽、人々が未来へ躍動する姿を「無限大∞」のフォルムに重ね合わせて表現。伊予市がさらに発展、飛躍していく姿をシンボライズしました。



市の花「菜の花」

一本一本は小さいけれど、一面に咲く姿は黄金を敷き詰めているようで、その光景は圧巻。春に向かって見る人に何か元気を与えてくれ、その姿は明るく伸びていく伊予市の姿をイメージできる花です。



市の木「メタセコイア」

数々の伝説を残し、化石になって今も語り継がれており、伊予市の記念樹（シンボル）としてふさわしい。伝承と記念物として、また、伊予市のオリジナリティをアピールできる木です。

第2次伊予市総合計画後期基本計画

令和3年3月

発行 伊予市

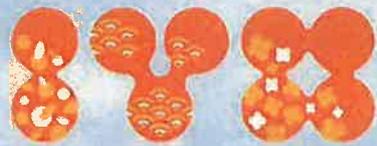
〒799-3193 愛媛県伊予市米湊 820 番地

TEL : 089-982-1111 FAX : 089-983-3681

<https://www.city.iyo.lg.jp/index.html>

編集 伊予市未来づくり戦略室

ますます、いよし。



伊予市